

セミナーセッションのご報告

各目標別の推奨対策の推進と周知に向けて、今年度2回目のセミナーを開催しました。当日は金曜日という平日にもかかわらず大勢の登録者と当日の参加者がありました。



■A会場「事例分析の基本について」

講師 河野龍太郎 参加者172名

相変わらずの「河野人気」で予定人数を20名オーバー、立ち見でもというファンも多く、小気味良いテンポで展開する「ImSAFERによるヒューマンエラー」の講義に参加者はみな熱心に聞き入り、自施設での展開をめざし学習が進められていました。

■B会場「安全な手術-WHO指針の実践」

講師 西脇高俊/市川高夫ほか 参加者98名

手術室の事故は患者にとって影響が大きいため、新しい取り組みにもかかわらず医師、看護師の参加が多く、また初めて内容を知ったという参加者からの声もあり、これからの推奨対策や展開を楽しみにしているという期待が寄せられていました。

■C会場「急変時の迅速対応(有害事象の早期発見と緊急対応)」

講師 川嶋隆久/高橋英夫/児玉孝光ほか 参加者146名

実際の発生事例からの所見、緊急処置の具体的な内容が解説され、「アナフィラキシーショック・胃管挿入トラブル・術後肺塞栓・血管迷走神経反射・空気塞栓」とリレー方式で対処が説明されました。どの内容も臨床では現実として発生しているため、セミナーで一番の収穫だったとの感想も聞かれました。

■D会場「医療安全への患者参加—転倒転落防止と肺塞栓予防」

講師 山内桂子/黒木ひろみ/保田知生 参加者152名

患者参加型の医療を実現させるためには会場の参加者からという趣旨なのか、ひとりひとりに青と赤の札が配られ、講師からのクイズ形式の出題に対して全員が色で回答、まさに参加者と講師が一体となって一番盛り上がった楽しい講義でした。

■E会場「人工呼吸器下ケアの安全管理(VAPを含む)」

講師 佐藤景二/長谷川隆一/宇都宮明美/田村富美子 参加者96名

人工呼吸器の事故、保守点検からさらに関連肺炎の予防まで、一連の展開からより患者管理に近づき、呼吸療法チームとしての活動の参考になりました。専門看護師の解説もあったので、ケアの具体的な内容がわかりやすかったとの感想が聞かれました。時間を延長し最後まで熱心に質疑が交わされていました。

共同行動のセミナー開催から早3年目となり、ようやく事前の登録準備、会場の準備、資料・講師の手配等が技術支援チームの手を離れて、まがりなりにも教育的環境のセミナー運営になってきたように感じました。これからも一年、より安全な医療が提供できるよう、支援チーム一同ボランティアで活動してまいります。皆様方からのご支援、ご協力もよろしくお願いいたします。

文責 山元恵子(支援チーム/富山福祉短期大学)